

concise explanation of No.63-195095

As illustrated on the Fig.3, the flexible seat-like display 1 is provided at a part of the front of the shutter-curtain 2 which can be rolled up. This is related to the shutter which is installed at the entrance of buildings, and not related to the electronic display.

## ⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭63-195095

⑬ Int. Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)12月15日

E 06 B 9/17  
9/10  
G 09 F 7/18  
11/15  
19/04  
19/22

Z-8006-2E  
C-8006-2E  
6810-5C  
6810-5C  
6810-5C  
6810-5C

審査請求 有 (全3頁)

⑮ 考案の名称 シャッターディスプレイ装置

⑯ 実 願 昭62-84133

⑰ 出 願 昭62(1987)5月31日

⑱ 考 案 者 山 本 毅 彦 大阪府大阪市東区両替町1丁目12番地 日本生命谷町ビル  
東洋シャッター株式会社内

⑲ 出 願 人 東洋シャッター株式会 大阪府大阪市東区両替町1丁目12番地 日本生命谷町ビル  
社

⑳ 代 理 人 弁理士 藤本 英夫

## ㉑ 実用新案登録請求の範囲

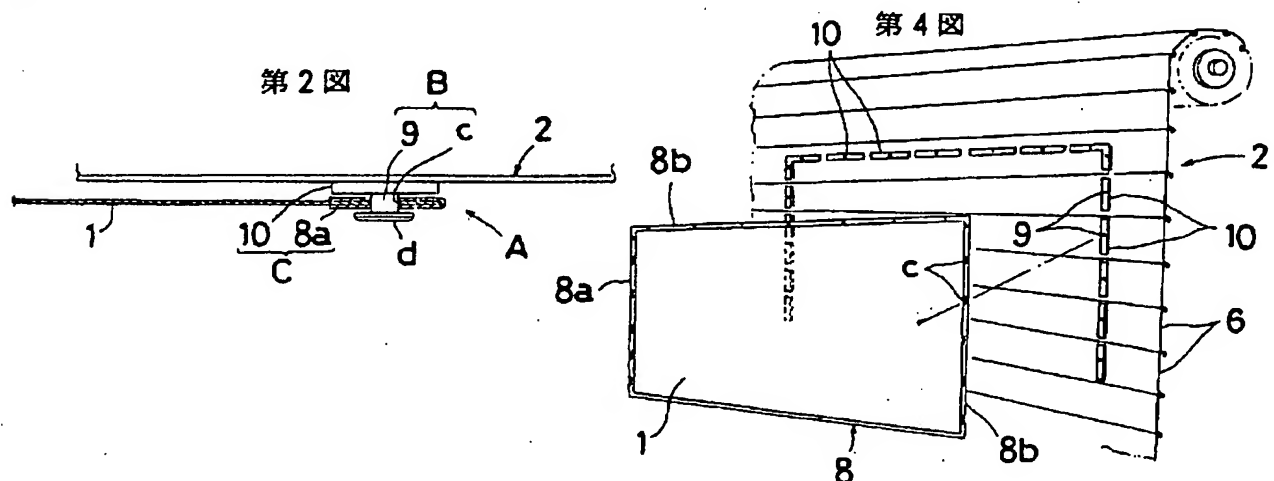
- (1) シャッターカーテンの複数個にわたるスラットの前面または背面に、シャッターカーテン巻き取り方向の相対移動が可能な相対移動機構を有する連結具を介して、可撓性のシート状表示物の巾方向両側縁部を装着してあることを特徴とするシャッターディスプレイ装置。
- (2) 前記相対移動機構が、突起物と該突起物をシャッターカーテンの巻き取り方向に移動可能に係合する係合溝とから成り、当該突起物ならびに係合溝を備えた部材対から成る連結具の一方を前記シート状表示物に且つ他方を前記シャッターカーテンに設けてある実用新案登録請求の範囲第(1)項に記載のシャッターディスプレイ装

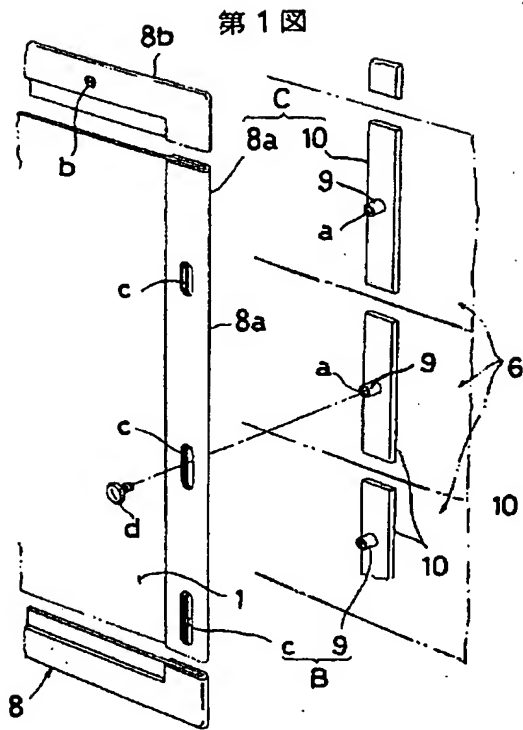
置。

## 図面の簡単な説明

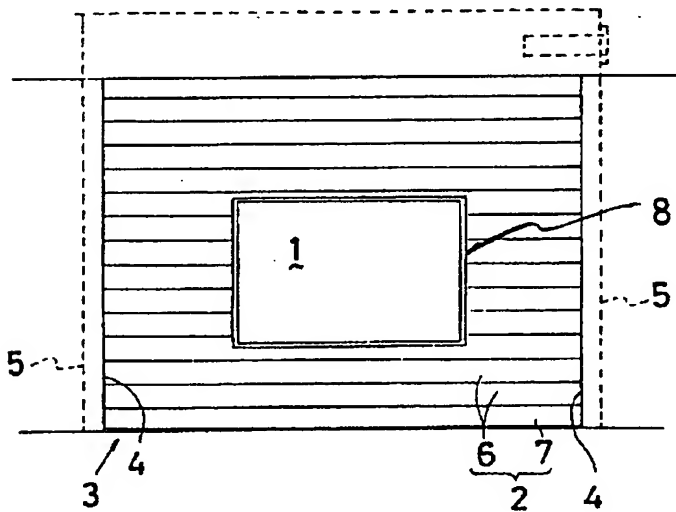
第1図はシャッターディスプレイ装置の分解斜視図、第2図はシャッターディスプレイ装置の断面図、第3図はシート状表示物を装着したシャッター装置の正面図、第4図はシート状表示物の装着説明図、第5図は相対移動機構ならびに連結具の詳細断面図、第6図乃至第12図は夫々別実施例の連結具の断面図である。

1……シート状表示物、2……シャッターカーテン、6……スラット、B……相対移動機構(突起物9、係合溝c)、C……連結具(側枠部材8a、突起部材10)。

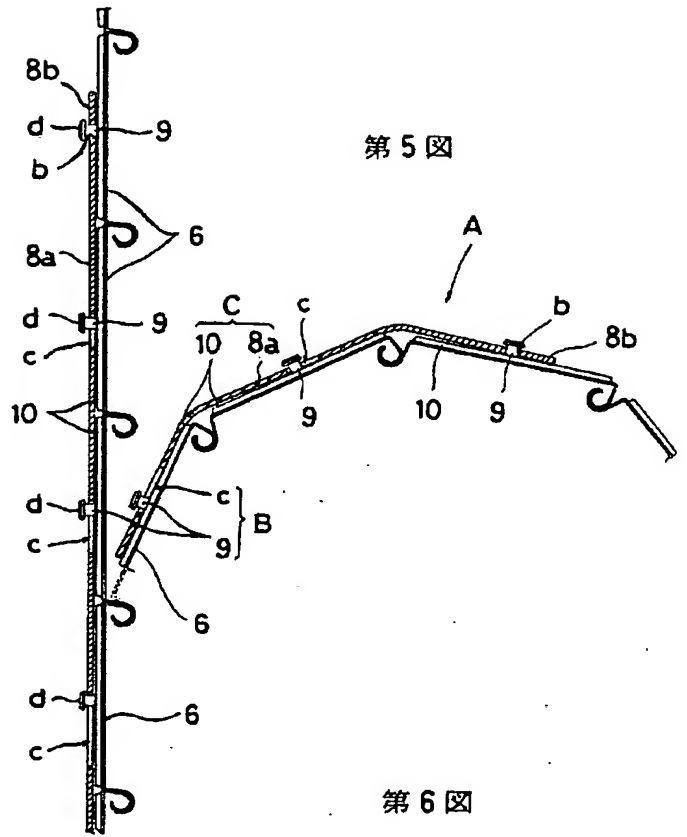
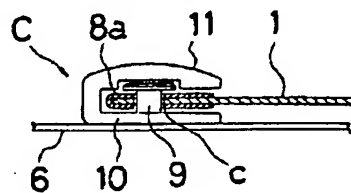




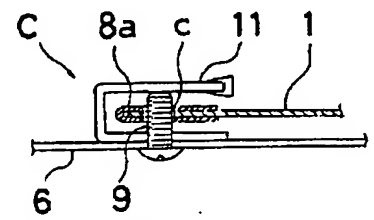
第 3 図



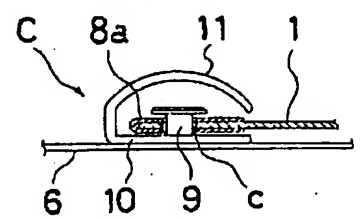
第 8 図



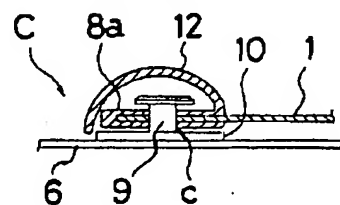
第 6 図



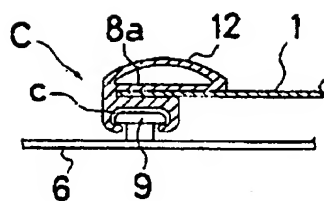
第 7 図



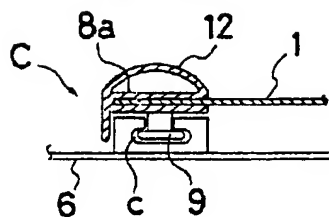
第 9 図



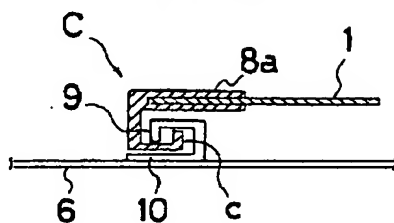
第 10 図



第 11 図



第 12 図



# 公開実用 昭和63- 195095

⑬ 日本国特許庁(JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63- 195095

⑮ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑯ 公開 昭和63年(1988)12月15日

E 06 B 9/17  
9/10  
G 09 F 7/18  
11/15  
19/04  
19/22

Z-8006-2E  
C-8006-2E  
6810-5C  
6810-5C  
6810-5C  
6810-5C

審査請求 有 (全 頁)

⑰ 考案の名称 シャッターディスプレイ装置

⑱ 実 願 昭62-84133

⑲ 出 願 昭62(1987)5月31日

⑳ 考 案 者 山 本 毅 彦 大阪府大阪市東区両替町1丁目12番地 日本生命谷町ビル  
東洋シャッター株式会社内

㉑ 出 願 人 東洋シャッター株式会 大阪府大阪市東区両替町1丁目12番地 日本生命谷町ビル  
社

㉒ 代 理 人 弁理士 藤 本 英 夫

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

シャッターディスプレイ装置

### 2. 実用新案登録請求の範囲

- (1) シャッターカーテンの複数個にわたるスラットの前面または背面に、シャッターカーテン巻き取り方向の相対移動が可能な相対移動機構を有する連結具を介して、可撓性のシート状表示物の巾方向両側縁部を装着してあることを特徴とするシャッターディスプレイ装置。
- (2) 前記相対移動機構が、突起物と該突起物をシャッターカーテンの巻き取り方向に移動可能に係合する係合溝とから成り、当該突起物ならびに係合溝を備えた部材対から成る連結具の一方を前記シート状表示物に且つ他方を前記シャッターカーテンに設けてある実用新案登録請求の範囲第(1)項に記載のシャッターディスプレイ装置。

### 3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、シャッター装置におけるシャッター



実開63-195095

カーテンの一部に、装飾用の写真や絵画、文字、模様、その他宣伝広告などを貼付又はプリントした可撓性のシート状表示物を配置して、閉塞下にある前記シャッターカーテンを宣伝広告や装飾用の壁面等に利用するための技術に関するものである。

〔従来の技術〕

シャッター装置の閉塞下にあるシャッターカーテンに、例えば、宣伝広告や休日表示などのポスターや、その他、無表情のシャッター面を華やかにする装飾用のポスター等のシート状表示物を装着するに際して従来は、ガムテープや両面テープ等によって当該シート状表示物を直接シャッターカーテンに貼着している。

〔考案が解決しようとする問題点〕

ところで、前記シャッターカーテンの全閉時におけるスラット間の直線状のピッチ寸法と、全開時におけるスラット間の円弧状のピッチ寸法とは異なるものであり、より詳しくは、シャッターカーテンを巻き取った全開状態において、シャッター

ーカーテン表面側では前記円弧状のピッチ寸法が前記直線状のピッチ寸法よりも大になり、かつ、シャッターカーテン背面側では前記円弧状のピッチ寸法が前記直線状のピッチ寸法よりも小になるものであって、而して、上記テープ等による貼着の手段では、前記シート状表示物をシャッターカーテンの背面側に貼着した場合、シャッターカーテンの全開下において該シート状表示物が弛み、あるいは表面側に貼着した場合は、シャッターカーテン巻き取り方向の引っ張り力がシート状表示物にかかって、シート状表示物がシャッターカーテンから剝がれたり破れたりすることがある。

このため従来は、前記シャッターカーテンの巻き取りに先立ち前記シート状表示物をシャッターカーテンから取り外してこれを保管し、次にシャッターカーテンを閉じた際に再び前記シート状表示物をシャッターカーテンに貼着しているが、その作業が大変煩わしいだけでなく、シート状表示物を剝がす際にシート状表示物を破損したり、あるいは、シート状表示物の貼着や取り外しを失念



してしまうことがあり、その上、シート状表示物の保管に際してテープの粘着面を汚してしまつて貼着が不能になることもあったのである。

本考案は、上記の実情に鑑みて案出されたものであって、上記従来の欠点を一切伴うことのない画期的なシャッターディスプレイ装置を提供することを目的としている。

〔問題点を解決するための手段〕

上記の目的を達成するための本考案によるシャッターディスプレイ装置は、シャッターカーテンの複数個にわたるスラットの前面または背面に、シャッターカーテン巻き取り方向の相対移動が可能な相対移動機構を有する連結具を介して、可撓性のシート状表示物の巾方向両側縁部を装着した点に特徴がある。

〔作用〕

上記の特徴構成によれば、全閉時と全開時におけるスラット間のピッチ寸法の差に基づくシャッターカーテンとシート状表示物との相対移動による位相差が、前記相対移動機構によって吸収され

るので、シート状表示物をシャッターカーテンに装着したままで当該シャッターカーテンを巻き取っても、シャッターカーテンの背面に装着したシート状表示物が弛んだり、あるいは、シャッターカーテンの前面に装着したシート状表示物が引張られたりすることがない。

〔実施例〕

以下、本考案の実施例を図面に基づいて説明すると、第1図及び第2図は本考案による一実施例のシャッターディスプレイ装置Aを示し、第3図及び第4図はシャッターカーテン2の前面側の一部にシート状表示物1を装着したシャッター装置3を示す。

上記シャッター装置3は、建屋の開口部両側壁4、4にガイドレール5、5を埋設すると共に、多数のスラット6…と下部座板7を相対回動自在に連結して成るシャッターカーテン2を、前記ガイドレール5、5に沿わせて昇降自在に設けて成る。

前記シャッターディスプレイ装置Aは次のよう



に構成されている。即ち、第 1, 2 図及び第 5 図にも示すように、装飾用の写真や絵画、文字、模様、その他宣伝広告などを貼付又はプリントした可撓性を有する矩形のシート状表示物 1 の四周に、可撓性に富む枠体 8 を嵌合ならびに接着等の手段で設けると共に、該シート状表示物 1 の装着範囲で且つ前記枠体 8 の側枠部材 8a, 8a と上枠部材 8b とに相対応する部分の各スラット 6 … の全面側に、長手中間に雌ねじ孔 a 付きの突起物 9 を突設した突起部材 10 … を接着等の手段で付設する一方、前記上枠部材 8b に前記突起物 9 を係合する孔 b を設け、かつ前記側枠部材 8a, 8a の夫々には、前記突起物 9 を係合するシャッターカーテン巻き取り方向(上下方向)に長い係合溝 c を形成すると共に、上記孔 b ならびに係合溝 c に前記突起物 9 を係入させると共に、該突起物 9 に抜け止め用の化粧ビス d を螺着させて成る。

尚、第 5 図で明らかなように、前記シャッターカーテン 2 の全閉下における前記シート状表示物 1 の装着下において、前記前記側枠部材 8a, 8a の

夫々に形成の係合溝 c の上端部に前記突起物 9 が対応位置し、かつ、前記シャッターカーテン 2 を巻き取ったシャッターカーテン全開下において前記突起物 9 が係合溝 c の下端部に対応位置するように、該突起物 9 と係合溝 c との相対位置関係が設定されている。

即ち、前記シャッターカーテン 2 の全閉時と全開時におけるスラット 6 …間の直線状と円弧状のピッチ寸法の差に基づく前記シャッターカーテン 2 とシート状表示物 1 との相対移動による位相差を、前記突起物 9 と係合溝 c との間で吸収されるようにしてあって、かかる突起物 9 と係合溝 c とにより、シャッターカーテン巻き取り方向での前記シャッターカーテン 2 に対するシート状表示物 1 の相対移動を可能にする相対移動機構 B が構成されているのであり、かつ、該相対移動機構 B を備えた前記側枠部材 8a、8a と突起部材 10 との対により、前記シート状表示物 1 をシャッターカーテン 2 に装着するための連結具 C が構成されているのである。

上記の構成によれば、前記シート状表示物 1 をシャッターカーテン 2 に装着させたままで該シャッターカーテン 2 を開閉しても、当該シャッターカーテン 2 に対するシート状表示物 1 の相対移動が可能であるから、前記シャッターカーテン 2 の閉塞下において前記シート状表示物 1 を展張させることができる。

一方、前記シャッターカーテン 2 と共にシート状表示物 1 を巻き取っても、前記シート状表示物 1 には強い引っ張り力がかからず、而して、該シート状表示物 1 が剥がれたり破損したりすることを回避できると共に、該シャッターカーテン 2 の巻き取り状態において、重なり合いの状態になるスラット 6、6 間にシート状表示物 1 が位置することになるが、重なり合う側のスラット 6 の背面側が突起物 9 に当接することで、該重なり合う側のスラット 6 によってシート状表示物 1 が傷付けられることもない。

尚、前記上枠部材 8b に対応する突起部材 10…を側枠部材 8a、8a に対応する突起部材 10…と同一構



成のものにしているが、複数個の突起物 9 … を一体に備えた長尺ものの突起部材 10 として付設するも良い。

第 6 図乃至第 12 図に各種の連結具 C の別実施例を示す。第 6 図に示すものは、コ字状の折曲板部をビスによってスラット 6 に止着して、前記ビスを突起物 9 とするカバー部材 11 付きの突起部材 10 を形成し、かつ、前記突起物 9 に側枠部材 8a の係合溝 c を係合させたものであり、第 7 図ならびに第 8 図に示すものは、夫々側枠部材 8a の上面部を覆う状態の湾曲形状のカバー部材 11 を、突起物 9 を備えた突起部材 10 に一体連設させたものである。

第 9 図乃至第 11 図に示すものは、側枠部材 8a を覆う状態のカバー 12 を当該側枠部材 8a に連設したものであり、そして、その内の第 10 図及び第 11 図に示すものにおいては、突起物 9 を係合する係合溝 c を長孔に代えて奥拡がりの凹溝構造に構成しており、第 12 図に示すものは、突起部材 10 の突起物 9 をフック形状にする一方、該フック状突起物 9 を係合する側の側枠部材 8a の係合溝 c もフック

状に形成したもので、第6図乃至第8図に示す全てのものが、スラット6…の相対回動を許容させ得るようにカバー部材11が断続状態になるのに対し、第9図乃至第12図に示すものは、カバー12を連続させ得る点に特徴があり、即ち、前記カバー12が恰もシート状表示物1の額縁を構成するように連続しているものであって、特に見栄えが良くなる点で好ましい態様のものである。

尚、上記各種形態の連結具Cをもって、シート状表示物1をシャッターカーテン2の背面側に装着させるようにするも良く、この場合は、前記シャッターカーテン2の全閉時と全開時におけるスラット6…間の前記ピッチ寸法の差に基づく前記シート状表示物1の弛みを吸収するように相対移動機構Bを構成するものである。

〔考案の効果〕

以上説明したように本考案によるシャッターディスプレイ装置は、シャッターカーテンの全閉時と全開時におけるスラット間のピッチ寸法の差に基づくシャッターカーテンとシート状表示物との



相対位相差を吸収する相対移動機構を連結具に備えさせて、該連結具を介して前記シャッターカーテンにシート状表示物を装着させるものであって、而して、該シート状表示物をシャッターカーテンに装着したままで当該シャッターカーテンを巻き取っても、シャッターカーテンの背面に装着したシート状表示物が弛んだり、あるいは、シャッターカーテンの前面に装着したシート状表示物が引っ張られて、該シート状表示物が剥がれたり破損したりすることがなく、従って本考案によるシャッターディスプレイ装置によれば、シャッターカーテンを開閉する度にシート状表示物を着脱したり保管したりする手間が一切不要となり、かつ従来のように、シート状表示物の着脱を失念することによるトラブルも全く生じなく、全体として、閉塞下にあるシャッターカーテンを宣伝広告や装飾等のスペースに利用する上で極めて有用なシャッターディスプレイ装置を提供できるに至ったのである。

#### 4. 図面の簡単な説明





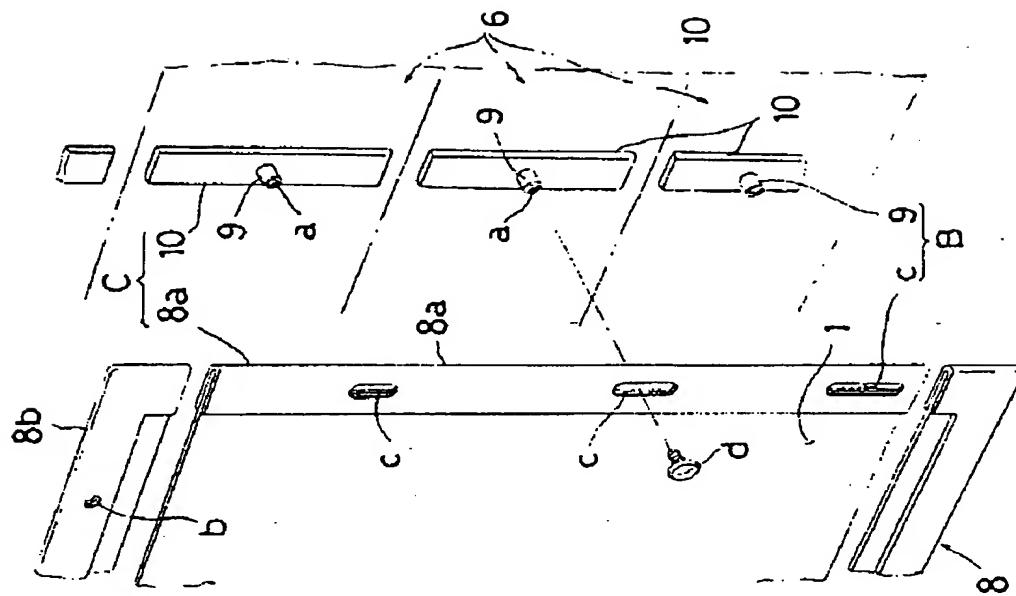
第1図はシャッターディスプレイ装置の分解斜視図、第2図はシャッターディスプレイ装置の断面図、第3図はシート状表示物を装着したシャッター装置の正面図、第4図はシート状表示物の装着説明図、第5図は相対移動機構ならびに連結具の詳細断面図、第6図乃至第12図は夫々別実施例の連結具の断面図である。

1…シート状表示物、2…シャッターカーテン、  
6…スラット、B…相対移動機構（突起物9，係合溝c）、C…連結具（側枠部材8a，突起部材10）。

出 願 人 東洋シャッター株式会社

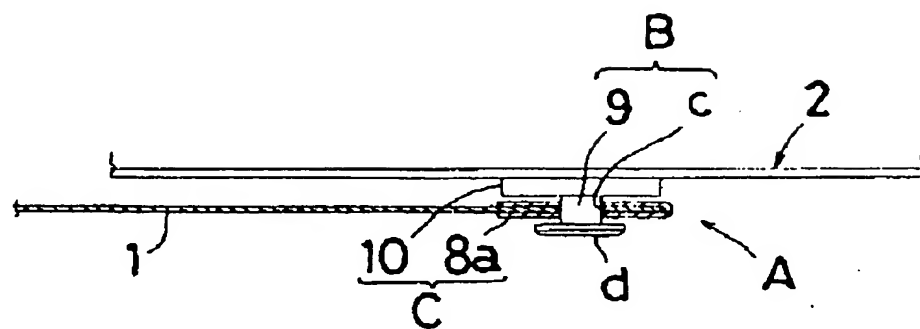
代 理 人 弁理士 藤本英夫

第1図

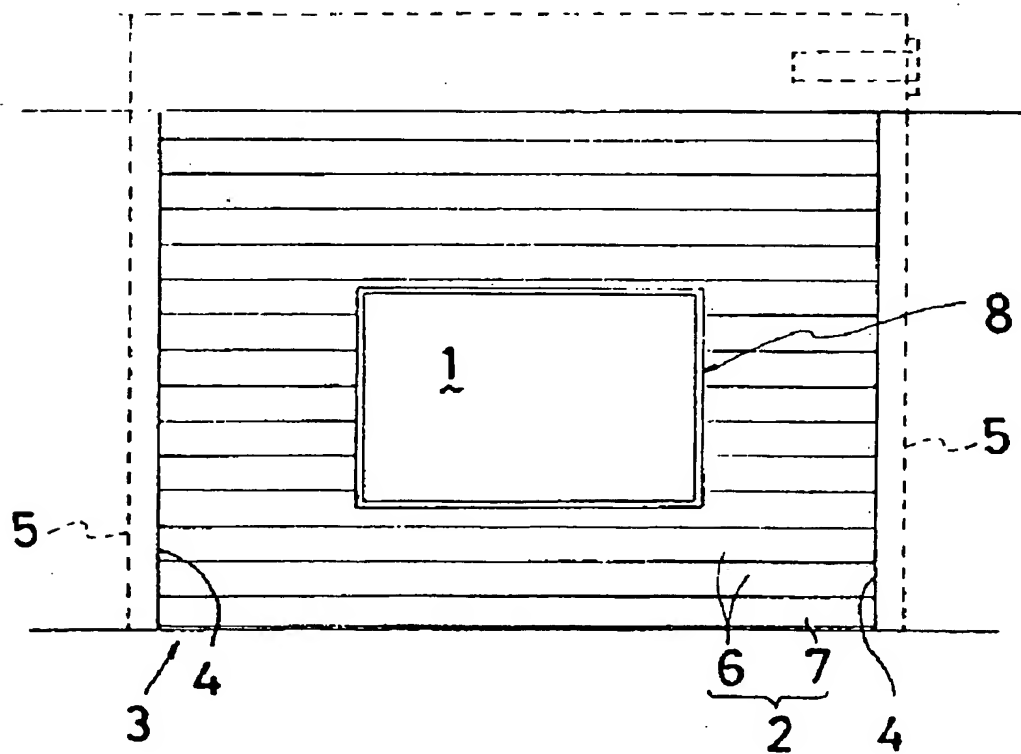


- 1 ... シート状表示物
- 2 ... シャッターカーテン
- 6 ... スラット
- 8a ... 側枠部材
- 9 ... 突起物
- 10 ... 突起部材
- c ... 係合溝
- B ... 相對移動機構  
(突起物、係合溝)
- C ... 連結具  
(側枠部材、突起部材)

第 2 図



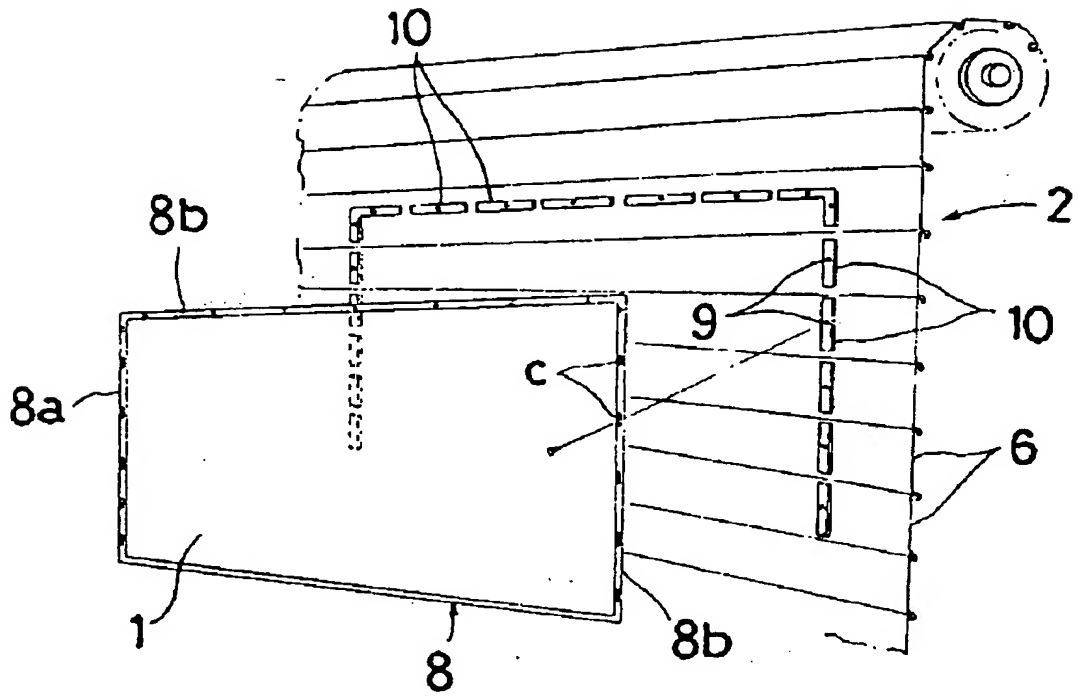
第 3 図



1065

実開63- 19509 5

第 4 図

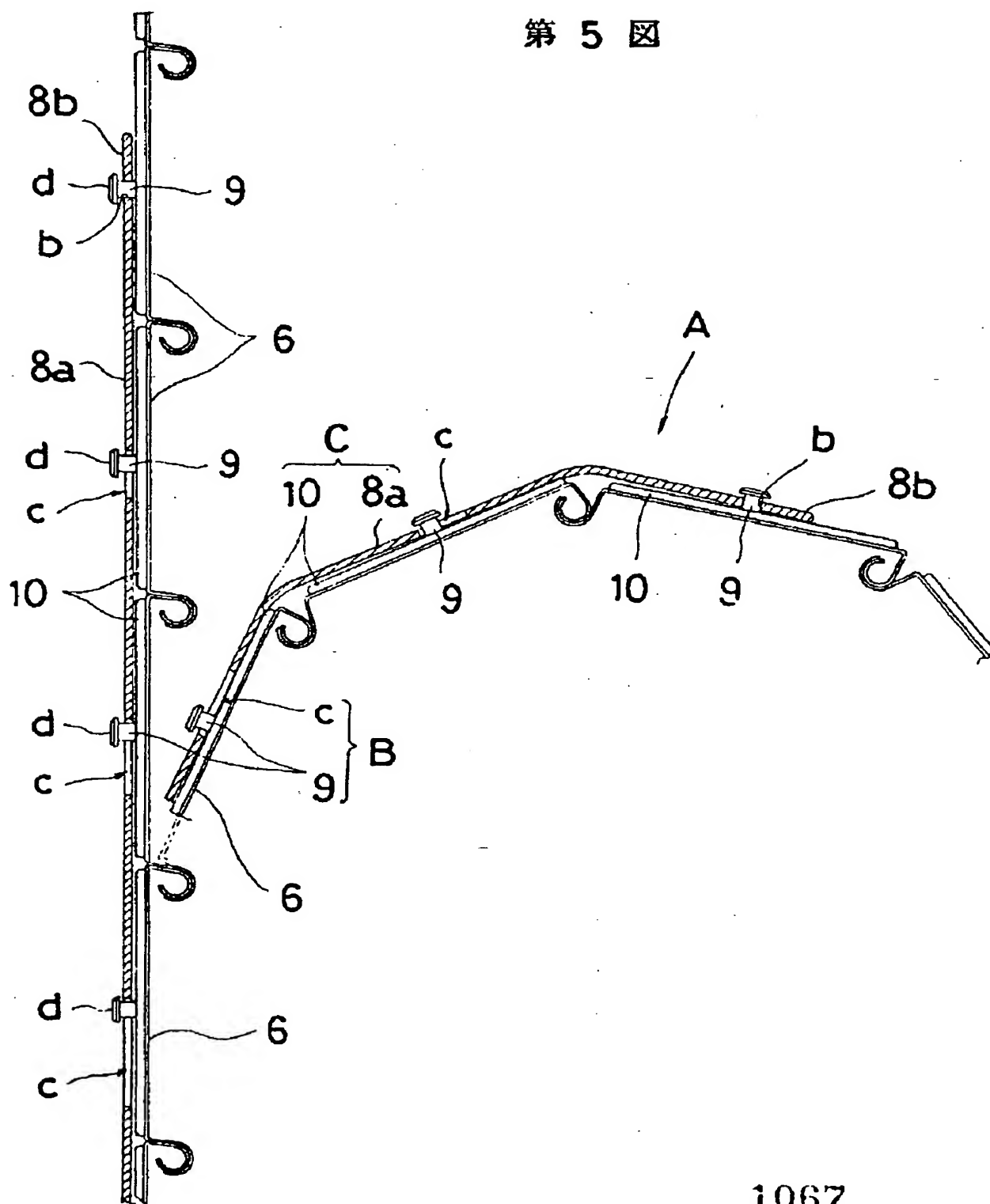


1066

実開63-195095

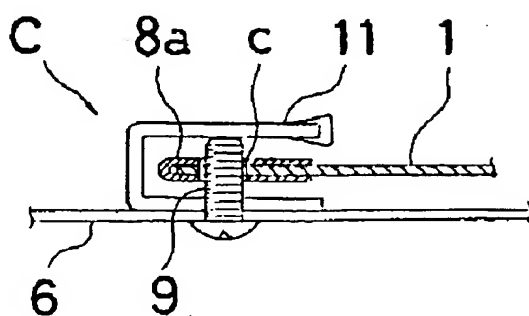
代理人 森田 十 藤 本 英 三

第 5 図

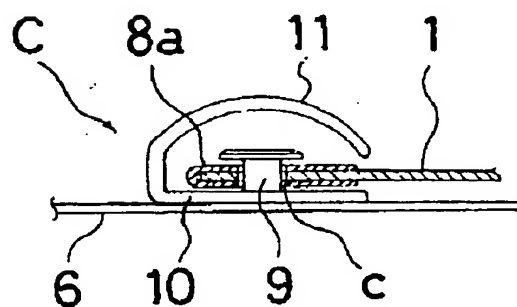


1067  
実開63-195095

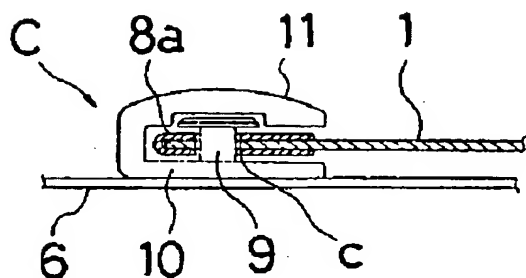
第 6 図



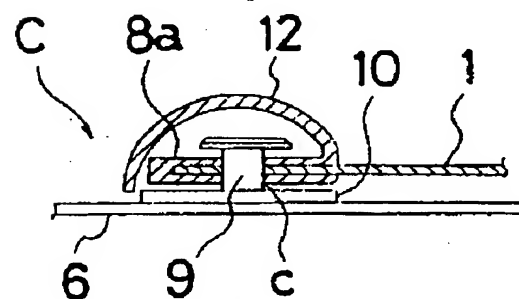
第 7 図



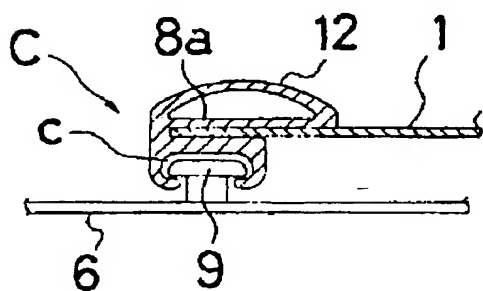
第 8 図



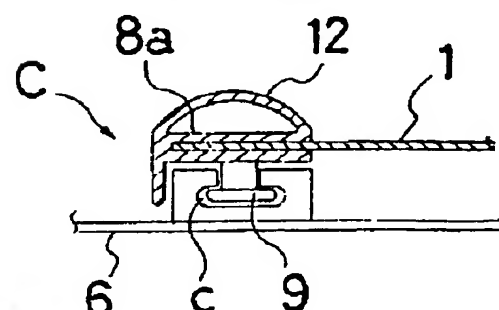
第 9 図



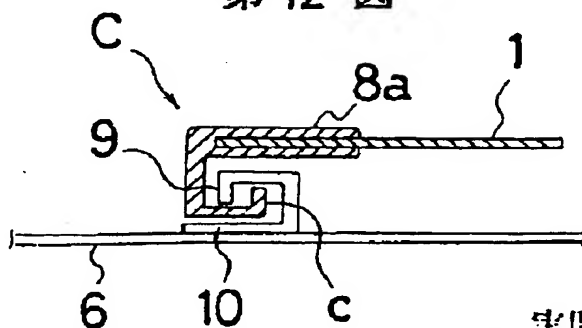
第 10 図



第 11 図



第 12 図



1068 実開 63-19509 5

代理人 弁理士 藤 本 英